



山梨大学 新技術情報クラブ

～ メールマガジン ～ 2025/03/03



【令 06-5 号】

本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。
メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

コーディネーターコラム

社会連携・知財戦略室

特任准教授 澁谷 晃

2月1日付で本学社会連携・知財戦略室に着任致しました、澁谷晃（しぶやあきら）と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私はこれまで約29年間、日本政府の開発援助機関である国際協力機構（JICA）で、一貫して途上国開発に携わってきました。その中で、世界の社会・経済課題が近年、ますます複雑化・多様化し、従来の「技術」、「知」のみでは解くことが難しい局面が生じていることを実感し、科学・技術の一層の進化と、その成果を活かして持続的に社会に貢献する企業が果たす役割の大きさに関心を持つようになりました。研究・開発の成果をもっと世の中に繋げるような仕事に携わってみたいとの思いを強くしていたところご縁を頂き、山梨大学に参りました。

本学は、社会課題の解決や望ましい未来の実現に向けた貢献と、研究の発展を両輪として実現するものとして、「大学発スタートアップ（ベンチャー企業）」の創出に力を入れています。私自身もこのテーマを担うことになり、腰を据えて取り組んでいく決意を新たにしています。

とはいえ、研究者が自ら導き出した研究成果を基に「起業」するスタートアップは、産学連携による「共同研究」などと同様に、元来、研究成果を課題解決に役立てるための「手段」の一つで、しかもなかなかハードルの高い選択肢です。まずは、個々の研究者の研究活動と起業への関心などを十分に理解し、「スタートアップ」が最適解となるケースを見出していければと思います。

一見すると、研究シーズ主導で、学内に閉じた仕事のように感じられるかもしれない、大学発「スタートアップ」の創出ですが、地域に繋がり課題解決に一定の役割を持つことで初めて成立するものであるが故に、大学のみで完結する仕事ではありません。起業に際し研究者は、自らの研究／研究成果を特定の課題と結び付け、製品やサービスに昇華させていくこととなりますが、そのプロセスでは、地域の方々からニーズや課題認識、それにアイデアなどを伺い、向かうべき方向をご一緒に考えながら取り組んでいくことがとても重要となります。

地域と大学との双方向の繋がりと、そこでの自由で闊達な議論を大切にしながら、地域にイノベーションが起きるような「土壌づくり」を進めて参りたいと思います。とりわけ、本学の研究に高いご関心をお持ち頂いている新技術情報クラブメンバーの皆様には、様々な機会に忌憚のないお話を伺わせて頂ければ幸いです。

インフォメーション 目次

- | | | |
|-----|------------|------|
| 01: | プレスリリース | (4件) |
| 02: | トピックス | (3件) |
| 03: | 山梨大学特許公開情報 | (2件) |
| 04: | 事務局からのお知らせ | |

◆世界初！マウスの受精卵から異常染色体を抽出することに成功
－異常染色体の種類と構造が明らかに－

山梨大学大学院 医工農学総合教育部（博士課程）統合応用生命科学専攻
3年の柴崎郁江大学院生、山梨大学発 生工学研究センターの若山照彦教授、このはな産婦人科などからなる研究グループは、染色体 異常のマウス受精卵から異常染色体を取り出し解析することに世界で初めて成功しました。

本成果は Nature 系列の姉妹紙 Communications Biology にオンライン掲載（日本時間12月26日（木）午後7時）されました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/12/20241227pr.pdf>

◆地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の採択について

山梨大学は、日本学術振興会（文部科学省）が公募した「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に提案大学として「クリーンエネルギー研究拠点」を申請し、採択されました。

本事業は、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により、研究力強化を図るための環境整備を支援するものです。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2025/01/20250124pr.pdf>

◆「令和6年度水素・燃料電池産業技術人材養成講座 成果報告会および閉講式」の挙行

令和7年2月13日(木) 山梨大学甲府西キャンパス 大村智記念学術館 大村記念ホールにおいて「令和6年度水素・燃料電池産業技術人材養成講座 成果報告会および閉校式」を挙行了しました。

本学では、山梨県からの委託を受けて、平成28年度から県内の社会人技術者等に対し、水素・燃料電池関連製品の製造に必要な知識を習得するための機会を提供し、県内中小企業等の雇用の増加、雇用環境の改善や安定的で良質な雇用環境の確保を図ることを目的として、「水素・燃料電池産業技術人材養成講座」を開講しております。これまでに161名が修了し、今年度は24名に終了証を授与しました。

◆「令和6年度医療機器産業技術人材養成講座」の閉講式の挙行

令和7年2月12日（水）、山梨大学医学部キャンパス シミックプラザ1階シミックホールにおいて、「医療機器産業技術人材養成講座」の閉講式を挙行了しました。

本学では、山梨県からの委託を受け、平成27年度から県内の社会人技術者等に対し医療機器製造に必要な知識や技術を習得する機会を提供し、県内中小企業等の雇用の増加、雇用環境の改善や安定的で良質な雇用環境の確保を図ることを目的として「医療機器産業技術人材養成講座」を開講しております。これまでに178名が修了し、今年度は19名に修了証を授与しました。

◆テレビ CM 第3弾「教育・医療の人材養成編」の放送開始のご案内
令和7年1月10日(金)より、テレビ CM「教育・医療の人材養成編」
が放送されました。

■放送局 YBS 山梨放送
■放送期間 1月10日(金)～1月31日(金)
■放送 CM 教育・医療の人材養成編

◆オリジナルミニ番組第6弾『「ナシダイブ」～学生インタビュー特別
編～』が放送されました。

■放送局 UTY テレビ山梨
■放送日時 1月21日(火)18:55～19:00
■番組名 ナシダイブ～学生インタビュー特別編～

上記の放送をお見逃しになられた方は、本学公式 YouTube チャンネル
で

も動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

■本学公式 YouTube チャンネルは[こちら](#)

◆山梨大学客員社会連携コーディネータ研究会開催

令和7年2月7日(金)、甲府キャンパスにおいて、「山梨大学客員社会
連携コーディネータ研修」実施しました。

本学では、平成18年度に客員社会連携コーディネータ制度を創設し、
包括的連携協定を結んでいる自治体や金融機関等の職員にコーディネ
ータを委嘱しています。この制度は、コーディネータが取引先企業など
からニーズを引き出し、本学の研究成果とマッチングさせることで共同
研究などを成立させるとともに、社会連携活動の推進に携わる人材の育成
し、さらなる地域の活性化に貢献することを目的としています。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

■<https://www.yamanashi.ac.jp/51805>



本学整理番号：P23-005PCT

国際出願番号：PCT/JP2024/007506 出願日：2024/02/29

国際公開番号：WO2024/185638 公開日：2024/09/12

発明の名称 : アルミノケイ酸塩系蛍光体の製造方法、アルミノケイ酸
塩系蛍光体及び発光装置

出願人 : 国立大学法人山梨大学

発明代表者 : 久保田 恒喜 先生

宮嶋 尚哉 先生

阪根 英人 先生

発明の概要 :

【要約】

従来よりも、希土類及び遷移金属の含有量が少ない蛍光体及びその製造
方法を提供する。 本発明によれば、アルミノケイ酸塩系蛍光体の製造
方法であって、第1焼成工程、シラノール基形成工程、及び第2焼成工
程を備え、前記第1焼成工程では、原料アルミノケイ酸塩を加熱して、
前記原料アルミノケイ酸塩中に酸素欠損を形成し、アルミノケイ酸塩系
蛍光体中間体1を得、前記シラノール基形成工程では、前記アルミノケ
イ酸塩系蛍光体中間体1の温度を下げ、前記アルミノケイ酸塩系蛍光体
中間体1に水を接触させてシラノール基を形成し、アルミノケイ酸塩系
蛍光体中間体2を得、前記第2焼成工程では、前記アルミノケイ酸塩系
蛍光体中間体2を加熱して、前記アルミノケイ酸塩系蛍光体中間体2を
非晶質様にし、前記アルミノケイ酸塩系蛍光体を得る、製造方法が提供
される。

本学整理番号：P23-007
出願番号：特願 2023-062125 出願日：2023/04/06
公開番号：特開 2024-148741 公開日：2024/10/18
発明の名称：解析方法及び解析システム
出願人：国立大学法人山梨大学
発明代表者：岩野 智彦 先生
吉村 健太郎 先生

発明の概要：

【要約】
【課題】被検体から採取された試料に対する複雑な前処理を必要とせず
に被検体の状態を分類可能である解析方法を提供する。
【解決手段】本発明によれば、解析方法であって、質量分析工程と、分
類工程と、を備え、前記質量分析工程では、質量分析装置が、エレクト
ロスプレーイオン化法によって探針部が保持する生体試料の質量分析を
実行し、各質量電荷比におけるイオン強度を含む測定データを出力し、
前記探針部は、電圧が印加される探針と、溶媒を保持する貯蔵部と、を
有し、前記分類工程では、プロセッサが、学習モデルを用いて、前記測
定データに含まれる複数の質量電荷比におけるイオン強度に基づき、前
記生体試料に対応する被検体の状態を分類する、方法が提供される。

■ ■
■ 04 事務局からお知らせ

◆技術課題等、ご相談について

技術課題や大学の知恵を借りたいなど、ございませんでしょうか。
会員会社様の持っておられる技術課題を伺います。
ご希望の会員様がございましたら、事務局までお気軽に連絡し
てください。

-
- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
 - 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有し
ます。

■ □ ■
■ □ ■